

海外安全対策情報（令和２年度第１四半期）

１ 社会・治安情勢

パラナ州公安局発表によるクリチバ市の２０１８年の殺人件数は３１７件で、件数、殺人率共に依然として高い数値で推移している。２０１８年クリチバ大都市圏での殺人件数は７６５件、１０万人あたりに換算すると２３．３件、世界保健機構が許容範囲としている殺人件数（１０万人当たり１０件）の２倍強。

２ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- （１）クリチバ市及び大都市圏では近年、誘拐、ＡＴＭ爆破強盗、携帯電話販売店や薬局店、レストラン及び住居を狙った武装強盗、運転中及び停車中を狙った車両強盗、武装集団による長距離バス及び路線バス内強盗が多発している。時間帯、場所を問わず銃器を使用した犯罪が増加しており、十分な注意が必要である。渡航情報（危険情報）については、パラナ州クリチバ大都市圏は「十分注意してください」を継続中。
- （２）パラナ州西部に面する隣国との国境地帯（特にパラグアイ）からは頻繁に大麻等の麻薬類及び銃器類の密輸が行われており、軍警察による押収量は増加する一方である。近年、パラナ州は麻薬の搬入ルートのみならず麻薬消費地域となっており、麻薬絡みの犯罪も増加傾向にある。

３ 犯罪事例（４月～６月）

- （１）４月１１日（土）夜間、クリチバ市パロリン地区のカナル大通りで、文民警察の警察官が殺害された。被害車警察官は、同大通りで、車両の中で数発の銃弾を受け殺害されているところを発見された。犯人は拳銃と財布を奪い逃走した。
- （２）４月１５日（水）早朝、クリチバ市セントロ地区で２５歳の男性が胸を銃で撃たれ殺害された。目撃者の話によると、被害車は自宅の前にいたところ、白い車両で近づいてきた犯人に発砲された。住民の通報により救急車が駆けつけたが、到着時すでに死亡していた。被害車は建物の中へ逃げようとし、建物の廊下で死亡していた。
- （３）４月２８日（火）午後、クリチバ大都市圏アラウカリア市にあるスーパーマーケットの従業員２８歳が射殺された。事件当時、新型コロナウイルスの制限措置として、市からマスクの着用が義務付けられており、当該スーパーでは入店客がマスクを着用しているか入口でチェックしていた。マスクを着用していない客が入店しようとしていたため警備員が注意したところ、当該客はマスクの着用を拒否した。その後警備員ともみ合いになり警備員の持っていた拳銃が暴発しスーパーの店員に命中、店員は死亡した。

- (4) 5月26日(火)午後10時頃、クリチバ市ジャルジンダスアメリカ地区の薬局にマスクを着用し拳銃を持った男が押し入り、女性従業員3人に性的暴行を加え、従業員の携帯電話とレジから現金を奪い、犯行時間30分程で逃走した。警察は、犯人はバトル地区、レボウサス地区の薬局で起きた同様の事件についても同一犯の疑いがあると見て捜査している。
- (5) 6月17日(水)朝、クリチバ市アルトダキンゼ地区のバス停で、銃を持った男性2人組がバスを待っていた女性2人から金品を奪い逃走した。通報を受けた軍警察官は逃走中の犯人の車両を発見し、追跡したところジャルジンダスアメリカ地区で犯人車両は木に衝突し停車、銃撃戦となった。犯人の1人は腹部に被弾し救急車で搬送され、もう1人は投降し逮捕された。警察の調べによると、犯人2人はその他の盗難事件及び麻薬の密売に関与している可能性があるともみて捜査している。
- (6) 6月25日(木)夜、クリチバ市バトル地区シルバジャルディン大通り沿いのガソリンスタンドに、ナイフを持った男女2人組が押し入り、女性従業員に対し現金を出すよう脅した。女性従業員は悲鳴を上げ、ハサミで身を守ろうとした。悲鳴を聞いて駆けつけた男性従業員は女性を守ろうとしたが、犯人に刺され、犯人の1人も肩に怪我をした。男性従業員は病院に搬送され、犯人は逃走した。